310PRESS
発行：衆議院議員 柿沢未途
〒135-0047 江東区富岡1-26-18-6F
TEL 03-5620-3104 FAX 03-5620-3105
WebSite 310kakizawa.jp
Twitter @310kakizawa
Vol. 24
2016年10月

衆議院議員 柿沢未途（みと）

華道家・假屋崎省吾さんとともに、野上ゆきえ都議と夫婦で

ブリュッセル・グランプラスの夜に、フラワーカーペットのライトアップ
©Peter Testelmans

柿沢未途（かきざわみと）／衆議院議員
- ■1971年生まれ。江東区立数矢小、麻布中・高、東大法卒
- ■NHK記者として長野五輪報道に携わる。都議２期
- ■2014年12月総選挙で東京15区（江東区）に衆院３期目の小選挙区当選
- ■2009年からの１期目では、260回以上の国会質問でナンバーワン
- ■NPO万年野党「国会議員３つ星ランキング」で、質問回数・質問力・総合の★★★トリプル３つ星議員★★★として表彰
- ■2016年４つ目の★★★３つ星議員として表彰される

“ジ・オナラブル・ミト・カキザワ、リプリゼンタティブ・オブ・ジャパン！”（衆議院議員・柿沢未途閣下！）

欧州の首都・ブリュッセル、中世の時代そのままの壮麗な歴史的建造物で、私の名がうやうやしく紹介されました。日本とベルギーの国交１５０周年を祝う行事で、日本を代表してスピーチする、緊張の瞬間です。

慶應元年（１８６６年）８月１日、江戸で調印された日本・白耳義（ベルギー）修好通商航海条約を始まりとして、日本とベルギーの外交関係が始まりました。明治新政府の派遣した岩倉遣欧使節団の残した「米欧回覧実記」にも、視察したベルギーについて「大国に挟まれながら、大国を超越し、欧州にも世界にも影響力を及ぼしている。三大国（英仏独）以上に感銘は切なるものがあった」と書かれています。

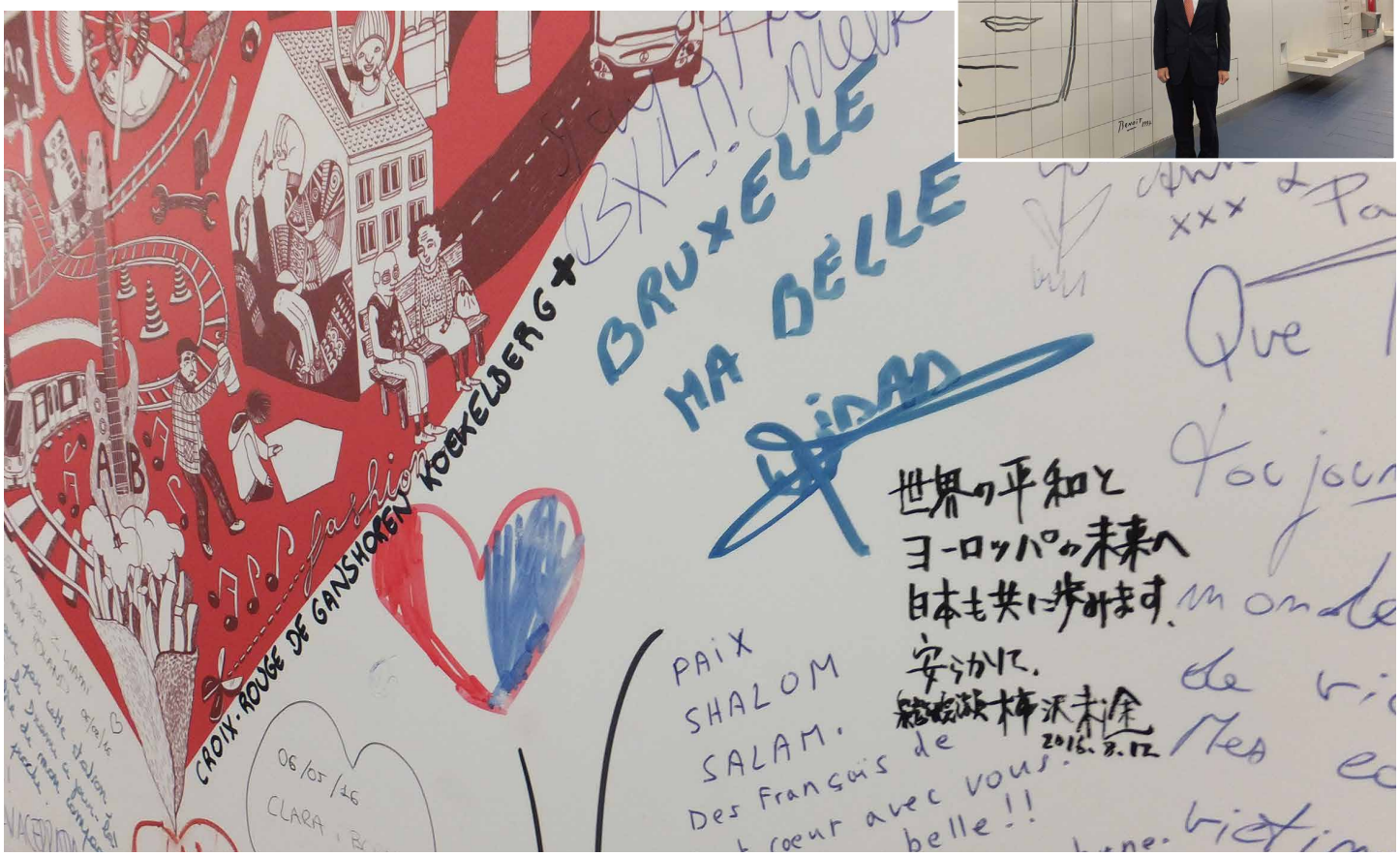
ベルギー王室と日本のご皇室との親交も深く、国交１５０周年行事の日本側の名誉総裁には天皇陛下が直々にご就任されているほどです。この１０月にはフィリップ国王のご訪日も予定されており、天皇陛下ともお会いになられます。

フランスとドイツの間に位置するベルギーは、ナポレオン敗北の地として有名なワーテルローをはじめ、欧州の戦争で必ずと言って良いほど戦場となり、数々の苦難を受けてきました。第一次世界大戦ではドイツがフランス攻略の途上でベルギーに攻め入り、第二次世界大戦でもナチス・ドイツにより５年間も占領されました。当時の国王レオポルド３世は、

戦後、その責めを受け、国王の座から生前退位を余儀なくされています。
このような歴史のあるベルギーだからこそ、大国による戦争の悲劇を繰り返さぬよう、戦後、欧州統合の中心地となっていったのです。１９５０年代に始まった欧州統合の歩みは、冷戦崩壊により旧共産圏の東欧諸国も取り込み、今や２８か国にまで広がりました。EU本部も、欧州議会も、そして西欧諸国の安全保障機構であるNATO本部もブリュッセルに置かれています。それが「欧州の首都」と呼ばれるゆえんです。

戦争で互いに血を流した主権国家が平和と経済発展のための共同体を形成する。この欧州統合の壮大な取り組みを、ブリュッセルの在ベルギー日本大使館で見つめていたのが私の父でした。父も母も美しい街並みに魅了され、欧州のすみずみを見て回りました。その時に現地で生まれたのが私です。今から４５年前の１９７１年（昭和４６年）１月２１日、ブリュッセルの産院で私は生まれました。生後3ヵ月でバスケットに入って父母とともに帰国しましたが、めぐりめぐって、今やベルギー生れの唯一の国会議員として、記念すべき国交１５０年を迎える事となったのです。
ブリュッセルでは2年に一度の国家的行事としてフラワーカーペットが偶数年の8月に開催されます。世界遺産となっているグランプラス広場に、百万本もの色とりどりのベゴニアの花を敷きつめて、美しい文様の花のじゅうたんが作られます。フランスの文豪ヴィクトル・ユゴーが「世界で最も豪華な広場」と形容した空間が、花々によりひときわ華やかに彩られる夏の祭典。それを見に世界中の人々がブリュッセルにやってきます。その２０１６年のフラワーカーペットが、国交１５０周年を記念して、史上初めて「日本」をテーマに開催されたのです。
デザインを担当したのは鈴木不二絵さんという若い女性のデザイナーで、「花鳥風月」をモチーフに、鶴、竹、鯉、松といった日本文化のシンボルを散りばめたカラフルな原画を、ベルギー人のマーク・シュカウトテイト氏が実際にベゴニアの花で表現します。

ベルギーのテレビ局から
インタビュー取材



マルベーク駅にてテロの犠牲者を悼んで

花を敷きつめる作業を現地の日本人の子ども達と
©Peter Testelmans

前日に摘まれた百万本のベゴニアの花を40km離れたゲントの街から運び、夜明け前の朝5時からデザイン通りに敷きつめていきます。

ベゴニアの花を敷きつめる約100人のボランティアの中で、現地在住の日本人の子ども達も朝から頑張っていました。そして、見に来たという人の中には、あの假屋崎省吾さんの姿が！さっそく私も假屋崎さんと一緒に花のじゅうたん作りに参加してみました。ベルギーの公共放送のテレビ局からも「ベルギー生れの唯一の国会議員」とインタビューを受けました。

夜の式典では、グランプラスでも最も印象的な建造物である15世紀に建てられた市庁舎で、日本を代表して、お祝いと感謝の言葉を述べました。45年前の私の出生について語った上で、「日本とベルギー、日本と欧州の架け橋になりたい」と私の思いを話すと、集まった皆さんから温かい拍手を頂きました。日本ベルギー友好議連の幹事長としての役目を果たせたのではないかと思います。

ブリュッセルでは今年3月、ISに影響を受けた者によるとみられる連続テロが発生し、空港と地下鉄駅で死者34人、負傷者320人を数えました。このうちEU本部や官庁街に近い地下鉄のマルベーク駅では20人が犠牲になりました。朝9時過ぎの出勤時間帯を狙った犯行には欧州の中枢を攻撃対象にしたとの悪意が見て取れます。日本人でも現地在住のビジネスマンがマルベーク駅で全身大やけどの重傷を負う被害が発生しています。

パリでもニースでもミュンヘンでも多発しているテロは、欧州社会を激しく揺さぶっています。それがもたらす極右勢力や排外主義の台頭も気がかりです。日本人にとっても決して他人事ではありません。マルベーク駅を訪れると、テロの犠牲者を悼み、平和を祈る寄せ書きが駅の壁にありました。「世界の平和と　ヨーロッパの未来へ　日本も共に歩みます　安らかに」と私も書きました。

ブリュッセルへは待ちに待ったANAの直行便が昨年から就航しましたが、せっかくの直行便の就航後、テロの影響で日本からの観光客は前年比40％減という大幅な落ち込みに見舞われています（パリも50％減だそうです）。ところが同じ直行便で日本を旅するベルギー人の数が当初の予想を大きく上回っているとの事。禅や武道といった日本文化への関心の高まりが背景にあります。4年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、両国の交流の一層の深まりを期待したいものです。今回のフラワーカーペットのように、それに私が貢献できたらと改めて感じました。

蓮舫新代表が誕生、党役員室長に就任。

民進党代表選が行なわれ、7月の参院選で112万票の全国最多得票で3期目の当選を果たしたばかりの蓮舫参院議員が、新しい代表に選ばれました。初の女性党首です。初の女性大統領を目指す米国のヒラリー・クリントン女史、ドイツのメルケル首相、イギリスのメイ首相、台湾の蔡英文総統、世界は女性リーダーの活躍が目覚ましい勢いです。女性の社会進出が著しく遅れている日本でも、小池百合子・東京都知事の当選、そして蓮舫代表と、世界の流れを追いかけています。その意味からか、蓮舫代表の就任あいさつは、真っ先に都庁の小池都知事への表敬訪問となりました。

２００４年の参院選初出馬以来、蓮舫さんとは、時に党派を超えて姉と弟のような親しい人間関係を続けてきました。今回の党代表選では、蓮舫さんの選対に入り、推薦人も引き受けました。「いつか総理にしたい」と思う玉木雄一郎代議士も最後に立候補し、複雑な思いもありましたが、3人の候補者と全国を回っているうちに、蓮舫さん、前原さん、玉木さんの誰がなっても、論戦力のある野党第一党になると確信する事ができました。

台湾籍の問題で厳しい批判にさらされた蓮舫さんは、最後の演説では「蓮は、泥沼の中に凛として立ち、花を咲かせます」としめくくりました。当選後、最も身近で党代表を支える裏方の役職である党役員室長に就任しました。野党第一党として、おごりも見えてきた巨大与党にしっかり立ち向かえるよう、目立たないところで女性党首を支えたいと思います。

夏だ！祭りだ！今年も担ぎました！